

2012年5月10日 説明会

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。  ニチレイ

中計最終年度で
事業基盤強化の取組を結実させる
—12/3の実績と13/3の見込—

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2167

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

目次

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

【連結業績サマリー】		【低温物流事業】	
2011年度の実績	1	2012年度の施策と見込	8
2012年度の見込	2	TC受託は順調に拡大、運送は輸配送機能の強化を推進	9
【加工食品事業】		東扇島の2期棟と関西圏での投資により事業基盤の強化を図る	10
2012年度の施策と見込	3	欧州は堅調に推移、中国は第二センター増設で事業基盤の拡充へ	11
主力市場の販売環境は良好。引き続き拡大基調を見込む	4	【参考資料】	
チキン加工品が増収牽引。タイ子会社は国内リスクを最小化する	5	データ集	12～16
海外販売戦略の進捗状況	6		
【水産・畜産事業】			
2012年度の施策と見込	7		

注:

- ① 当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。
- ② 「前回見込」は2012年2月7日に発表した見込を、「E」、「見込」は2012年5月8日に発表した今期の見込を示している。

連結業績：2011年度の実績

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	実績	通期			
		前年同期間比		前回見込比	
		増減	率	前回見込	増減
加工食品	1,742	123	8%	1,740	2
水産	657	-12	-2%	655	2
畜産	756	-27	-3%	735	21
低温物流	1,495	101	7%	1,500	-5
不動産	49	-17	-25%	51	-2
その他	60	-2	-3%	60	0
調整額	-210	5	-	-221	11
売上高合計	4,549	171	4%	4,520	29
加工食品	52	5	12%	50	2
水産	2	-4	-62%	6	-4
畜産	5	1	35%	6	-1
低温物流	74	1	1%	73	1
不動産	24	-12	-34%	21	3
その他	5	1	16%	4	1
調整額	0	2	-	0	0
営業利益合計	162	-5	-3%	160	2
経常利益	153	-9	-5%	149	4
当期純利益	79	39	95%	81	-2
ROE	7%	3%		7%	-
EPS	26円	13円	101%	27円	-1円

1. 売上高

主力の加工食品と低温物流がそれぞれ8%、7%と大きく伸長し、全体でも前年比4%の増収。

2. 営業利益

不動産の賃貸ビルの契約更改による減益要因が大きいですが、その一方で加工食品が大きく伸長し全体では5億円の減益にとどまる。

3. 経常利益・当期純利益

当期純利益は2010年度の特別損益(退職給付制度改定損など)の影響がなくなり39億円の増益。

4. その他:

- ① 自己株式の取得・・・2012年2月に中計目標株数1,500万株の取得を完了。
- ② 社債の発行・・・長期の安定資金確保のため2011年9月に200億円を発行。

連結業績:2012年度の見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第2四半期(累計)			第3・4四半期(累計)			通期		
	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		見込	前年同期間比	
		増減	率		増減	率		増減	率
加工食品	922	53	6%	928	56	6%	1,850	108	6%
水産	336	9	3%	354	24	7%	690	33	5%
畜産	390	14	4%	390	10	3%	780	24	3%
低温物流	766	18	2%	770	23	3%	1,536	41	3%
不動産	25	-1	-4%	25	1	6%	50	1	1%
その他	29	0	1%	32	0	1%	61	1	1%
調整額	-115	-6	-	-112	-11	-	-227	-17	-
売上高合計	2,353	87	4%	2,387	104	5%	4,740	191	4%
加工食品	28	2	9%	32	6	23%	60	8	16%
水産	3	-1	-26%	4	6	-	7	5	214%
畜産	4	1	23%	4	2	101%	8	3	52%
低温物流	36	-1	-1%	40	3	7%	76	2	3%
不動産	10	-2	-19%	11	-0	-2%	21	-3	-11%
その他	1	-1	-47%	2	-1	-32%	3	-2	-38%
調整額	-2	-2	-	0	-1	-	-2	-2	-
営業利益合計	80	-3	-4%	93	15	19%	173	11	7%
経常利益	77	-1	-1%	88	14	18%	165	12	8%
当期純利益	49	7	16%	51	14	38%	100	21	27%

ROE	8%	1%	
EPS	34円	8円	29%

1. 売上高:加工食品を中心に低温物流、水産、畜産も増収を見込み、全体で前年比4%の増収。
2. 営業利益:加工食品、水産、畜産、低温物流で増益を見込み、全体で前年比11億円の増益。
3. 経常利益・当期純利益:当期純利益は前年に発生した特別損失(投資有価証券評価損など)の影響がなくなり、前年比21億円の増益を見込む。

加工食品事業

2012年度の施策と見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	実績	2011年度					2012年度									
		通期					第2四半期(累計)			第3・4四半期(累計)			通期			
		前年同期間比		前回見込比			見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		
		増減	率	前回見込	増減	増減		率	増減		率	増減		率		
加工食品	売上高計	1,742	123	8%	1,740	2	922	53	6%	928	56	6%	1,850	108	6%	
	家庭用調理品	521	41	9%	514	7	265	7	3%	269	6	2%	534	13	2%	
	業務用調理品	811	40	5%	805	6	410	12	3%	429	16	4%	839	28	3%	
	健康価値	50	2	3%	54	-4	31	2	7%	30	9	44%	61	11	22%	
	その他	360	40	13%	367	-8	216	32	17%	200	24	14%	416	56	16%	
	営業利益	52	5	12%	50	2	28	2	9%	32	6	23%	60	8	16%	

1. 2011年度の状況

①売上高は8%の大幅増収

震災後に内食・中食増加の傾向が顕著になる中、チキンを中心とした調理品の拡販により、家庭用調理品は市場を上回る9%の大幅増収、業務用も堅調に推移し5%の増収。

②営業利益は5億円の増益

原材料コスト上昇は当初想定より小幅に収まった。仕入改善等の吸収策や増収効果、生産性改善等でコスト上昇を吸収し増益へ。

2. 2012年度の見込

①売上高は前年比6%増収を目指す

家庭用・業務用とも前年の環境が継続すると想定。チキンの継続的拡販と内食・中食ニーズをとらえた商品の投入、タイの欧州向け販売等で108億円の増収へ。

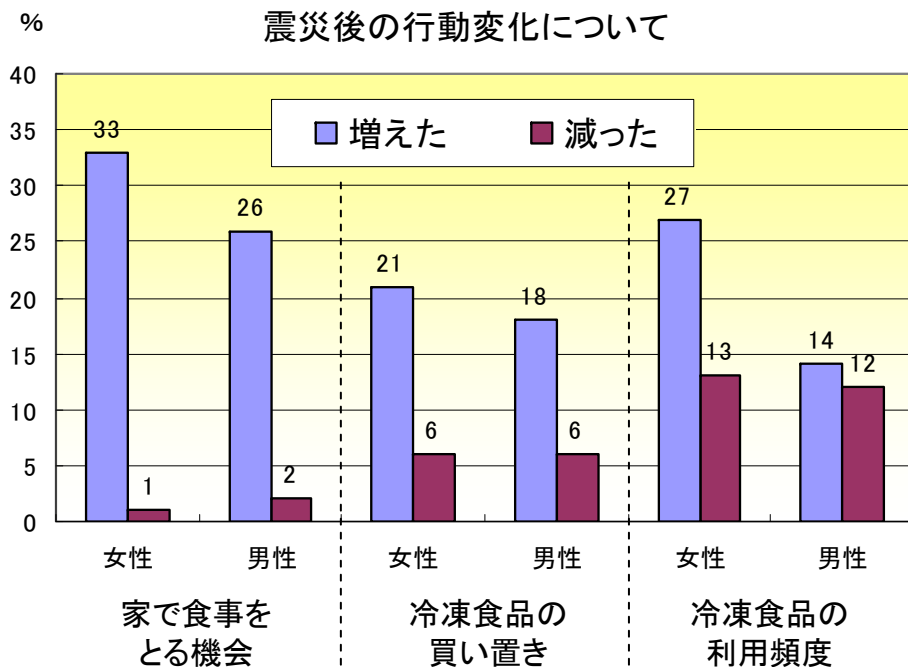
②営業利益は8億円の増益で中計目標額60億円を目指す

米を中心に一部原材料のコスト上昇を見込むが、増収効果、GFPTニチレイの稼働改善、生産性改善などでカバーする。

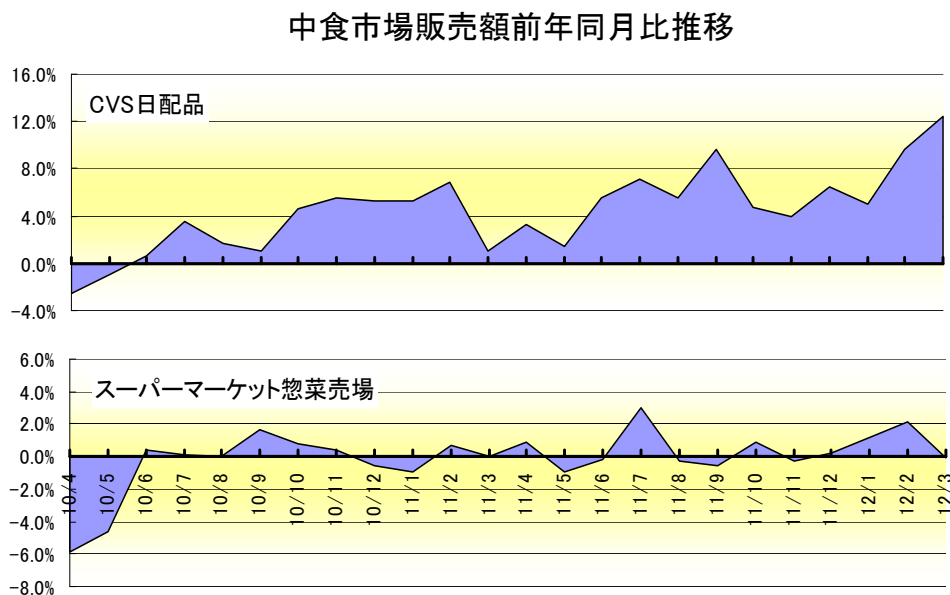
11/3期営業利益	46
減益要因	-26
原材料・仕入価格上昇	-20
GFPTニチレイの業績影響額	-4
その他	-2
増益要因	32
原材料仕入改善等の吸収策	12
調理冷凍食品増収効果	9
生産性改善	6
固定費削減	5
12/3期営業利益	52
減益要因	-5
原材料・仕入価格上昇	-4
その他	-1
増益要因	12
調理冷凍食品増収効果	5
GFPTニチレイの業績影響額	3
生産性改善	2
その他	3
13/3期営業利益	60

主力市場の販売環境は良好。引き続き拡大基調を見込む

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**



出典：日本冷凍食品協会発表のデータを当社で加工



出典：日本フランチャイズチェーン協会、日本チェーンストア協会
各協会発表のデータを当社で加工

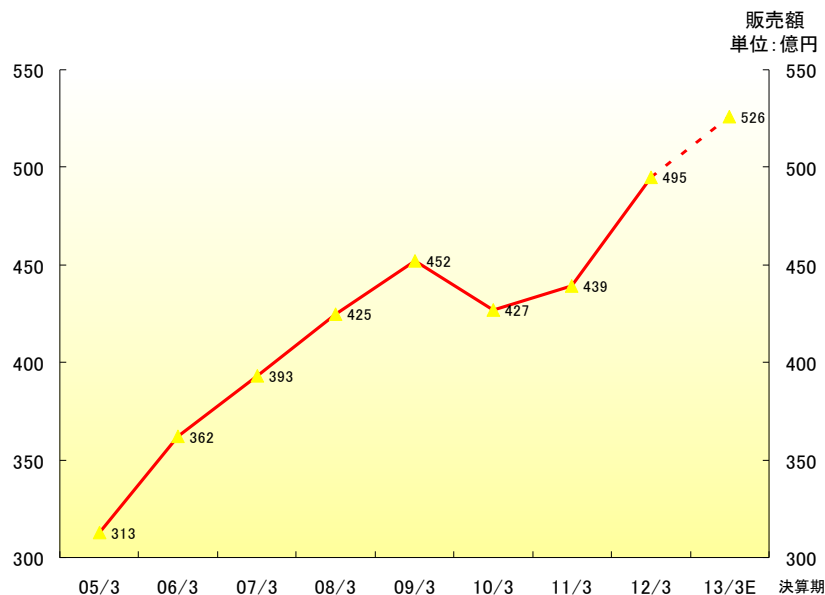
1. 東日本大震災後の購買行動変化の影響もあり、内食・中食市場は拡大基調にある。両市場をメインターゲットとする当社は拡大するマーケットでニーズを的確にとらえ前年を上回る売り上げを見込む。
2. 主力のチキン加工品の拡販に加え、家庭用は内食需要に対応したボリュームパック商材(グリルドチキン)を、業務用は惣菜・外食向けに簡便調理が可能なキットメニュー(QuickMade)をそれぞれ投入しマーケットニーズに対応する。
3. 主力商品カテゴリへの集中による収益性改善や工場での生産性改善にも引き続き取り組む。

<加工食品事業>

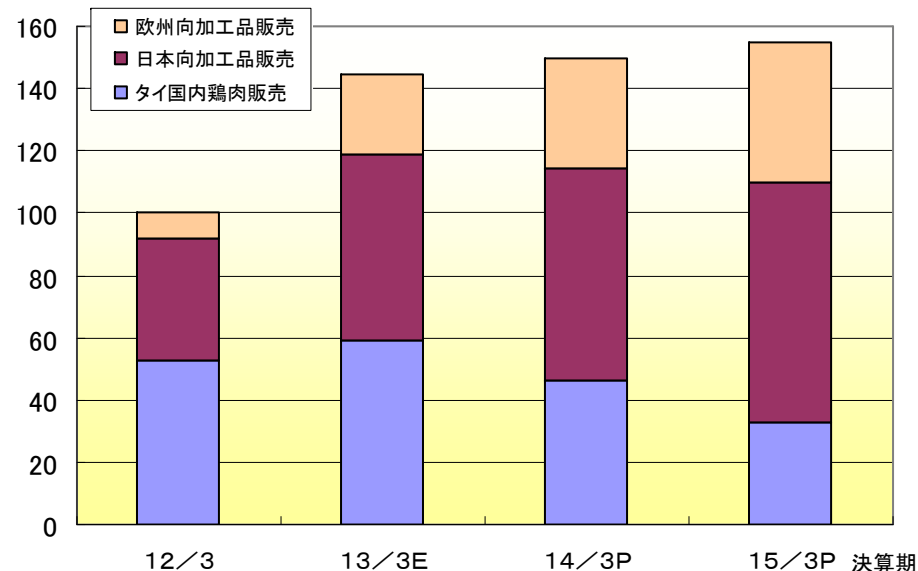
チキン加工品が増収牽引。タイ子会社は国内販売リスクを最小化する

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

当社チキン加工品販売金額推移(日本国内販売のみ)



GFPTニチレイ 12年3月期を100とした販売先別生産重量



1. チキン加工品の前年度の売上高は想定を上回って着地。今年度も内食・中食市場向けを中心に販売を拡大し、加工食品伸長の牽引役に。
2. タイの生産子会社GFPTニチレイの処理羽数は当面の目標10万羽／日に達した。原料用に生産している鶏肉の一部をタイ国内で販売しているが、足元で欧州販売解禁を見込み増産している影響で相場が軟調なため、鶏肉販売での収益改善には時間がかかる見込み。
3. 加工品の販売を伸長させタイ国内鶏肉販売の影響を最小化するため、欧州販売先開拓と加工ラインの生産性改善、ムネ肉の商品開発を急ぐ。2013年度にはライン増設により加工品化を加速する。

海外販売戦略の進捗状況

<欧州>

GFPTニチレイ

(欧州、タイ国内への鶏肉・加工品販売)

欧州向けにムネ肉を使用したチキン加工品(加熱済)の販売を拡大。



ニチレイブラジル農産(アセロラ果汁生産)

アセロラ原料のフルライン化を準備中。既存の濃縮果汁に加え、パウダー形態で提供することで、加工原料、酸化防止剤等のマーケット拡大を図る。

<ベトナム>

Cholimex Foods(調味料、冷凍食品製造)

チリソース、調味料、冷凍食品の現地大手へ3月に19%を出資、市場の受容性に応じた商品投入を検討中。



<中国>

日爵海食品貿易(冷凍食品企画・販売)

中国大手FF向けに業務用冷凍食品の受注が内定。今回の取組を契機に扱い商品の拡大を図る。販売拡大と並行して生産体制の拡充も検討する。

泰安佳裕食品(冷凍野菜生産)

6月より本格稼働を開始。さといも、枝豆、おくら、ブロッコリー等の商品を生産。当面は日本向けの生産を優先するが、12年度中を目途に中国国内向けも開始予定。

<アメリカ>

世界最大の冷食市場。

DELIマーケットの市場性について調査中。

ニチレイフーズの商品開発力、提案力を武器に参入を検討したい。

加工食品事業の2011年度海外販売額は85億円。5年後を目途に150億円を目指す。

水産・畜産事業

2012年度の施策と見込

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		2011年度						2012年度							
		通期				第2四半期(累計)		第3・4四半期(累計)		通期					
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		見込	前年同期間比				
			増減	率	前回見込	増減		増減	率		増減	率			
水産	売上高	657	-12	-2%	655	2	336	9	3%	354	24	7%	690	33	5%
	営業利益	2	-4	-62%	6	-4	3	-1	-26%	4	6	-	7	5	214%
畜産	売上高	756	-27	-3%	735	21	390	14	4%	390	10	3%	780	24	3%
	営業利益	5	1	35%	6	-1	4	1	23%	4	2	101%	8	3	52%

1. 水産事業

- ①前年度はえびの供給不足や貝類等の産地価格変動を吸収しきれなかったことが影響し4億円の減益。
- ②今年度は相場の安定化やえびの供給回復を見込むと共に、収益体質の強化を進め5億円の増益を目指す。
- ③収益体質の強化策としてこだわり素材などの商品の付加価値・独自性強化、加工品を中心としたマーケットの拡大、在庫削減の3つの施策を進め、相場の変動に左右されにくい体制を再構築する。

2. 畜産事業

- ①前年度は輸入チキンの大量搬入に伴う相場下落が全般的に影響し減収となったが、営業利益は2010年度上期の口蹄疫や猛暑の影響がなくなり1億円の増益に。
- ②今年度は輸入チキンの需給正常化に伴う収益改善とこだわり素材等の商品力強化により3億円の増益を見込む。
- ③こだわり素材のフラッグシップである純和鶏事業において、岩手県軽米町に養鶏場、加工場の運営会社を設立し2013年度より生産基盤を拡大する。

低温物流事業

2012年度の施策と見込

		2011年度						2012年度								
		通期						第2四半期(累計)			第3・4四半期(累計)			通期		
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		
			増減	率	前回見込	増減		増減	率		増減	率		増減	率	
低温物流	売上高計	1,495	101	7%	1,500	-5	766	18	2%	770	23	3%	1,536	41	3%	
	物流ネットワーク	833	64	8%	828	5	434	21	5%	432	12	3%	866	33	4%	
	地域保管	459	22	5%	461	-2	236	3	1%	229	3	1%	465	6	1%	
	海外	188	24	15%	191	-3	93	-2	-2%	96	3	3%	189	1	0%	
	その他・共通	15	-9	-38%	20	-5	3	-4	-54%	13	5	60%	16	1	9%	
	営業利益計	74	1	1%	73	1	36	-1	-1%	40	3	7%	76	2	3%	
	物流ネットワーク	29	3	12%	28	1	15	2	17%	16	-1	-3%	31	2	6%	
	地域保管	41	-2	-4%	42	-1	22	0	2%	22	2	13%	44	3	7%	
	海外	9	2	33%	10	-1	5	-1	-15%	4	1	17%	9	-0	-3%	
	その他・共通	-5	-3	-	-7	1	-6	-2	-	-2	0	-	-8	-2	-	

◆2011年度の状況

全体

売上高は各事業とも増収で全体でも前年比7%の大幅増収
営業利益は償却負担の重い地域保管を好調な物流ネットワークと海外が吸収し1億円の増益。

1. 物流ネットワーク

8%の大幅増収、3億円の増益。TC(通過型センター)の新設効果が売上・利益両面に寄与。利益面では震災によるマイナス影響2億円を吸収。

2. 地域保管

5%の増収、2億円の減益。拠点新設効果もあり増収となったが、利益面では償却負担の影響が大きく減益に。

3. 海外

15%の大幅増収、2億円の増益。ユーロ安基調の中、前年度のゴッドフロア買収効果に加え既存事業も好調に推移。

◆2012年度の見込

全体

売上高は3%の増収、営業利益は2億円の増益を見込む。

1. 物流ネットワーク

4%の増収、2億円の増益を見込む。TC新設の効果が引き続き寄与する。

2. 地域保管

1%の増収、3億円の増益を見込む。新增設効果や償却負担の減少などで増益の見込み。

3. 海外

売上・利益ともに前年並みを見込む。為替の影響などを受けるが、現地通貨ベースでは引き続き増収増益で堅調に推移。

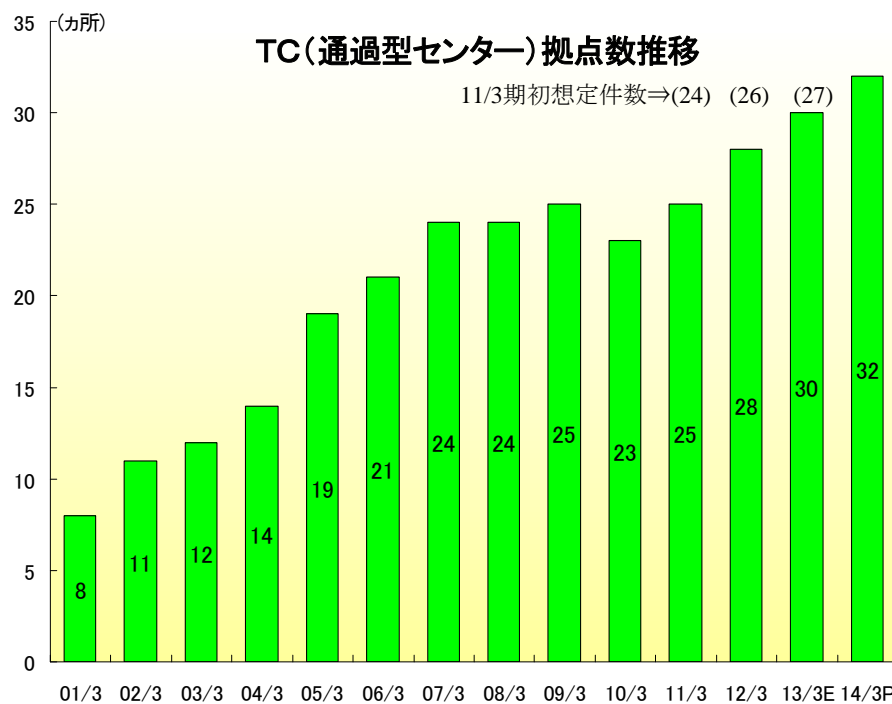
4. その他・共通

2億円の減益を見込む。システム関係費用などの増加が主因。

TC受託は順調に拡大、運送は輸配送機能の強化を推進

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1. TC(通過型センター)の受託件数は、中計の想定を上回るペースで進捗。今後はセンターの新規受託に加え、既存センターにおける常温を含めた複数温度帯の取扱拡大や調達物流の獲得を通じて、更なる収益基盤の拡充を図る。
2. 運送は、冷食・アイス共配において既存顧客の取扱エリア拡大と新規顧客の開拓を進めていくと共に、地域保管会社との連携による北海道、九州を中心とした産地発貨物の取込拡大を進める。
3. 3PLは前年度に受託した大手外食チェーンの安定稼働を図ると共に、新たな顧客の開拓に努める。



最近のTC受託事例

稼働年月	事業所名	受託先の業態	取扱品目
2009.10	福崎(大阪府)	食料品スーパー	チルド
2009.12	いわき(福島県)	食料品スーパー	チルド
2010.10	佐賀(佐賀県)	ドラッグストア	常温
2010.11	越谷青果(埼玉県)	大型総合スーパー	チルド
2011.01	早島(岡山県)	食料品スーパー	チルド
2011.07	広川(福岡県)	ドラッグストア	常温
2012.01	八戸(青森県)	食料品スーパー	チルド
2012.02	青森(青森県)	食料品スーパー	チルド
2012.06(予定)	鳥栖(佐賀県)	ドラッグストア	チルド
2012.10(予定)	山形寒河江(山形県)	食料品スーパー	チルド
2013年度	2件受託予定		

(注)10/3と11/3の拠点数には閉鎖分も織り込んでいる。

東扇島の2期棟と関西圏での投資により事業基盤の強化を図る

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1. 東扇島DCに対する需要は依然強くほぼ満庫の状況が続く。利益面では付帯業務の取扱拡大や荷役作業の更なる効率化で改善を進める。
2. 2013年夏の2期棟稼動による設備能力増強をにらみ、貨物誘致を積極的に推進すると共に、首都圏の港湾地区において倉庫毎の特性に合わせた最適な貨物構成の実現を目指す。
3. 関西圏においても顧客からの引き合いは強く、現在物流適地を検討中。

東扇島DCを含めたロジグループの首都圏港湾地区の拠点網



東扇島DC(1期棟+2期棟)について

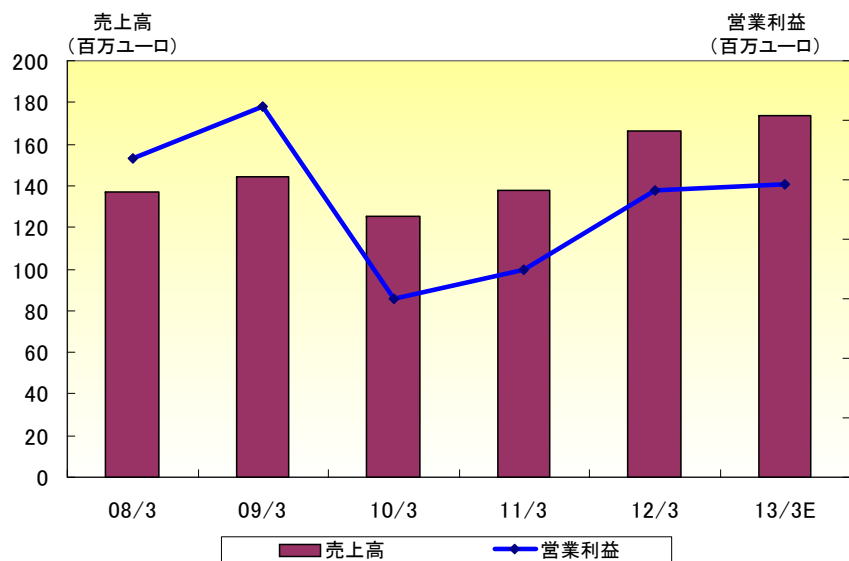


欧州は堅調に推移、中国は第二センター増設で事業基盤の拡充へ

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1. 欧州事業は債務危機の影響を受けるが、それをカバーして堅調に推移。その結果、ユーロ安による為替換算上の影響は出るものの、現地通貨ベースでは前年比で増収増益を見込む。(ユーロ円の為替レート:11年度実績@111, 12年度見込@106)
2. 今後はグループ各社間のシナジーの追求に加え、フランスやポーランドでの顧客の獲得による設備の増強を図り、西欧、東欧圏でのより一層の収益基盤の強化を目指す。
3. 2012年4月に上海第二センターが稼動。保管能力の拡充、自社車両台数の増強による上海地区での配送効率化や華東地区への輸送拡大を通じて、旺盛な保管・運送需要を取り込む。

欧州現地通貨 業績推移



上海での運送事業の展開



參考資料

2012年3月期通期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	12/3	11/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,154	1,031	123	①
固定資産	1,750	1,813	-63	②
資産の部合計	2,905	2,845	59	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	841	1,103	-261	③
固定負債	876	564	311	③
負債の部合計	1,718	1,668	50	
純資産の部	1,187	1,177	9	
(うち株主資本)	1,165	1,150	15	
有利子負債	978	969	8	
(うちリース債務除く)	748	724	23	
科目	12/3	11/3	増減	
設備投資額	116	210	-94	④
(うちリース資産除く)	89	172	-82	
減価償却費	149	141	8	
(うちリース資産除く)	111	104	7	

【主な要因】

- ① 主力の加工食品と低温物流の大幅な増収や期末の金融機関休業日の影響により売上債権が79億円増加。また、販売拡大に備えた在庫増加などでたな卸資産が55億円増加。
- ② 前期の設備投資の減価償却も進み有形固定資産が53億円減少。
- ③ 最近の金融環境の変化を踏まえ、資金調達の方針を変更。長期固定での調達(社債・長期借入金)を完了し金利変動リスクに備える。
- ④ 設備投資の主なもの
低温物流
東扇島DC2期棟、
鹿児島曾於DC、青森TC

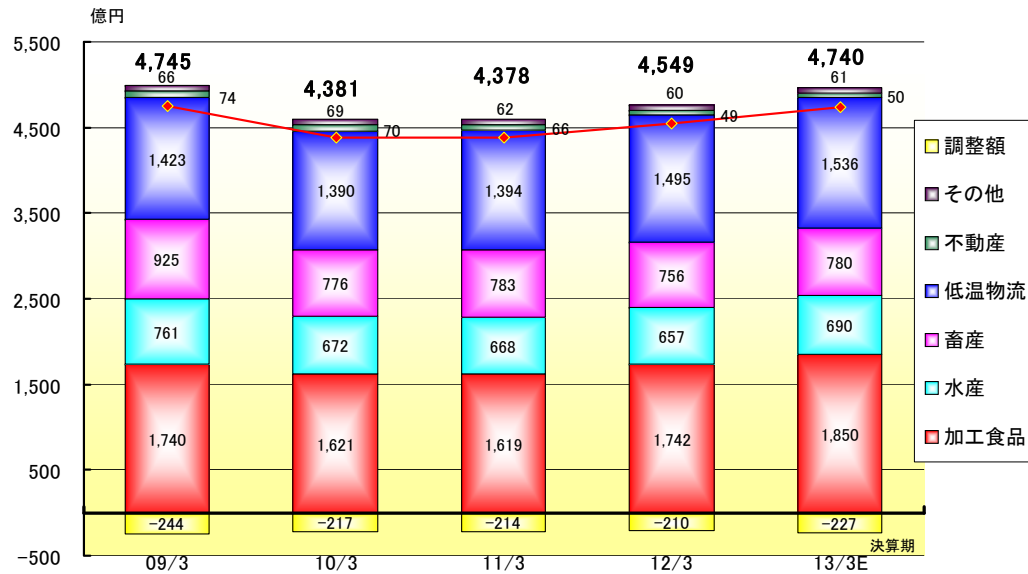
2012年3月期通期 営業外収支・特別損益の変動要因

単位:億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		通 期				
		12/3	11/3	前回見込	前年同期間 比増減	前回見込 比増減
【営業外収支】		-9	-5	-11	-3	+1
(主要項目)						
金融収支		-8	-8	-10	+0	+1
【特別損益】		-10	-72	-7	+62	-3
(主要項目)						
投資有価証券売却益		+1	+8	+1	-6	+0
受取補償金	①	-	+30	-	-30	-
災害による損失	②	-3	-31	-3	+28	-0
投資有価証券評価損	③	-6	-0	-6	-	-0
退職給付制度改定損	④	-	-66	-	+66	-
資産除去債務会計基準適用影響額	⑤	-	-7	-	+7	-

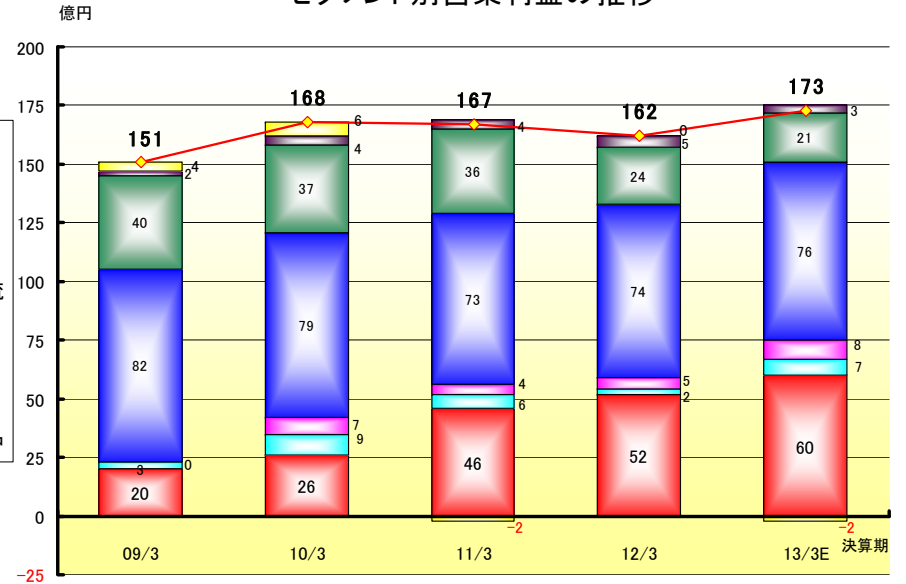
(注) 前回見込は2012年2月7日に発表したもの

- ① 区分地上権設定に伴う特別利益
- ② 東日本大震災に伴う特別損失
- ③ 株価下落に伴う特別損失
- ④ 退職給付制度の変更に伴う特別損失
- ⑤ 資産除去債務会計基準適用に伴う特別損失

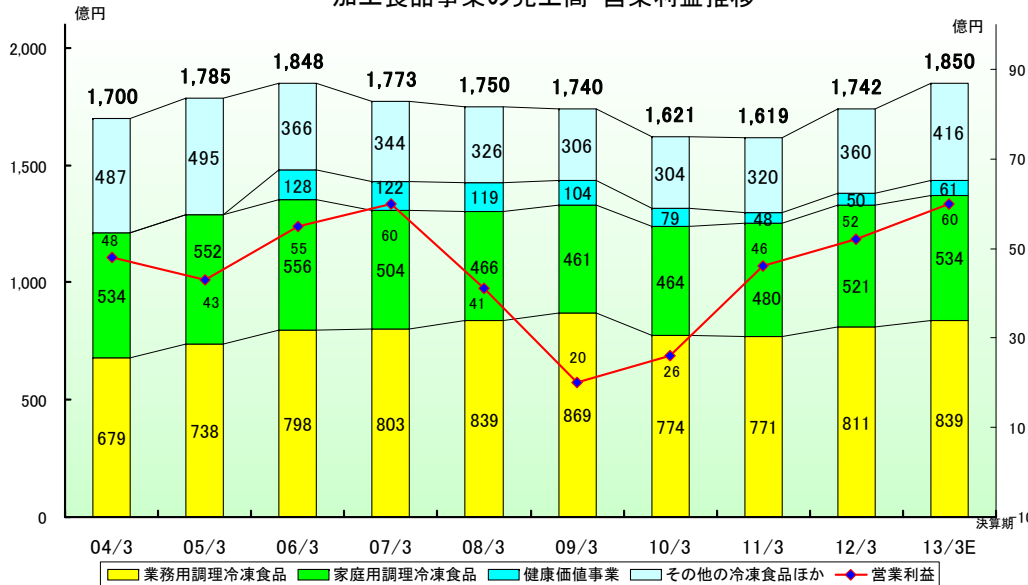
セグメント別売上高の推移



セグメント別営業利益の推移

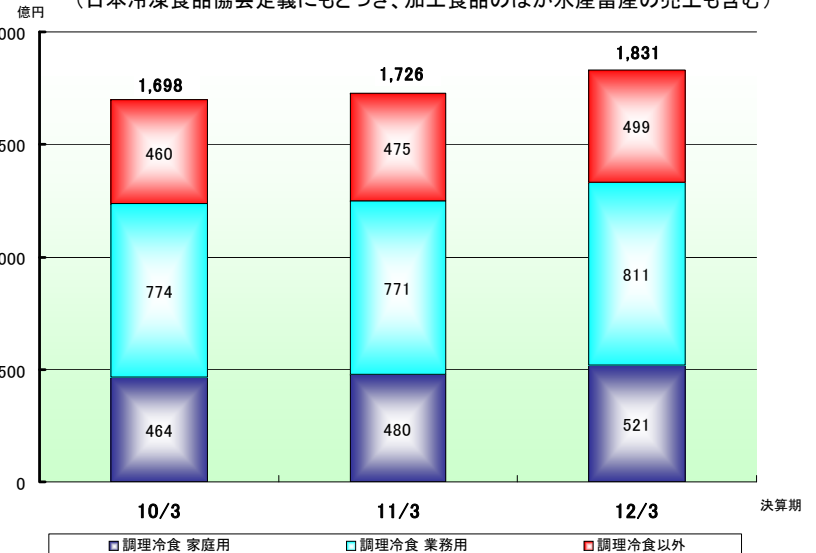


加工食品事業の売上高・営業利益推移

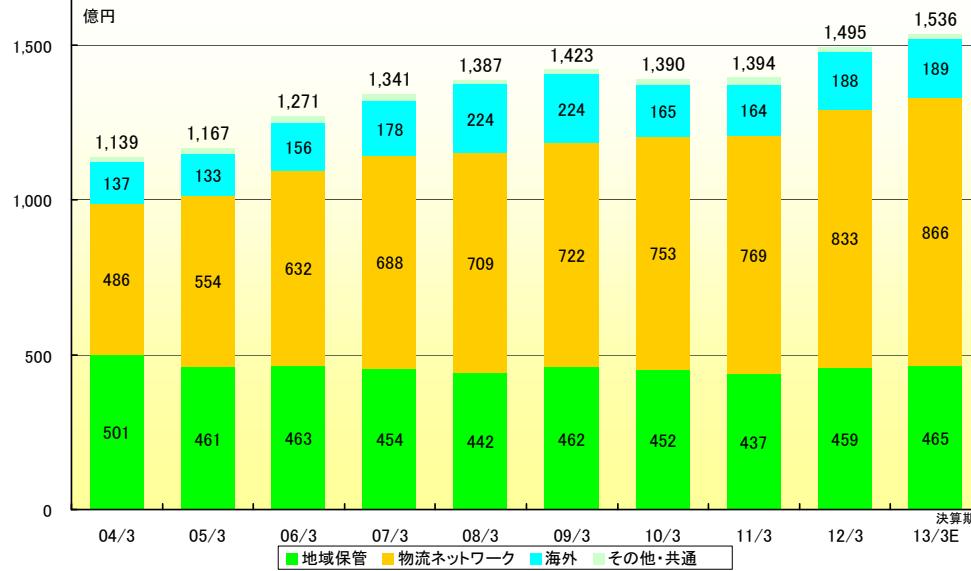


冷凍食品売上高の推移

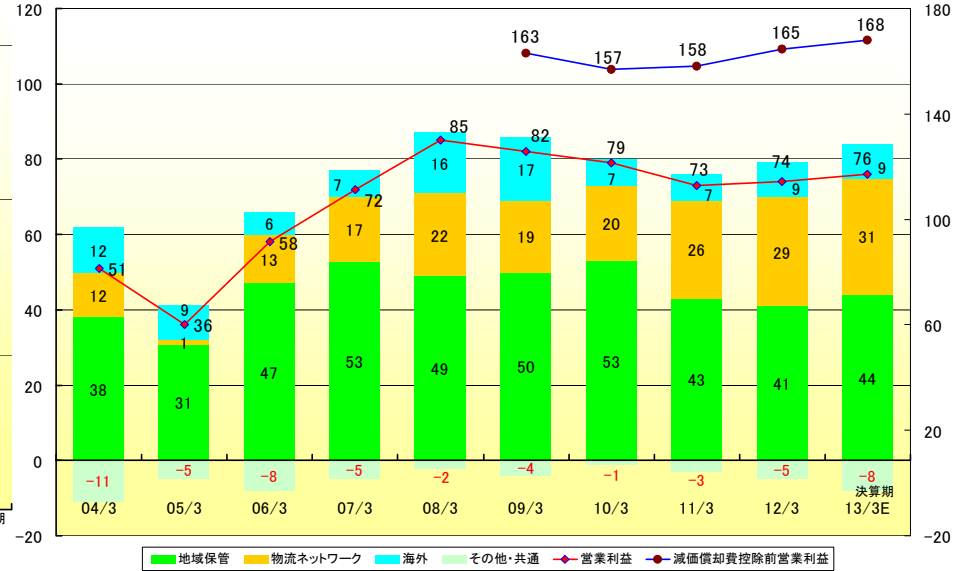
(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



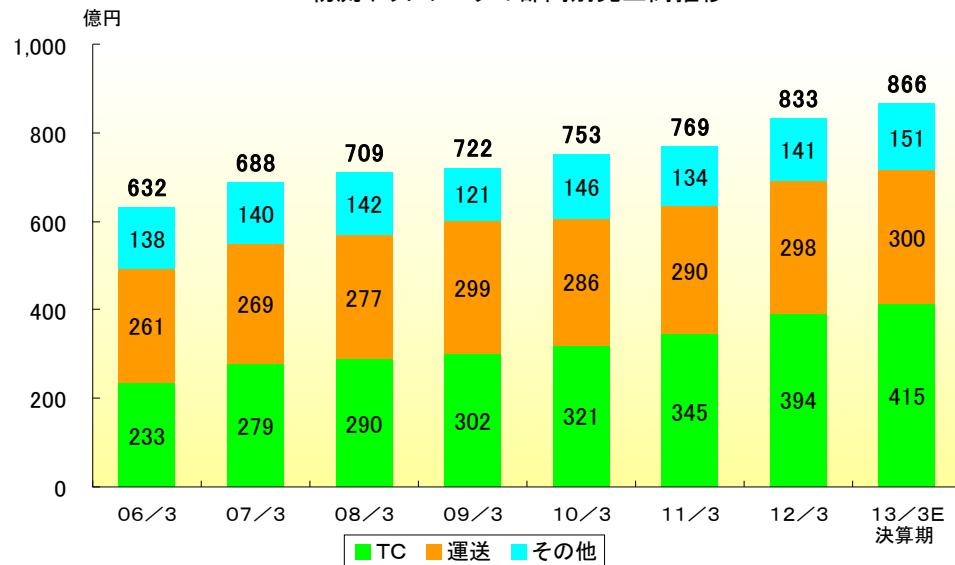
低温物流事業の売上高推移



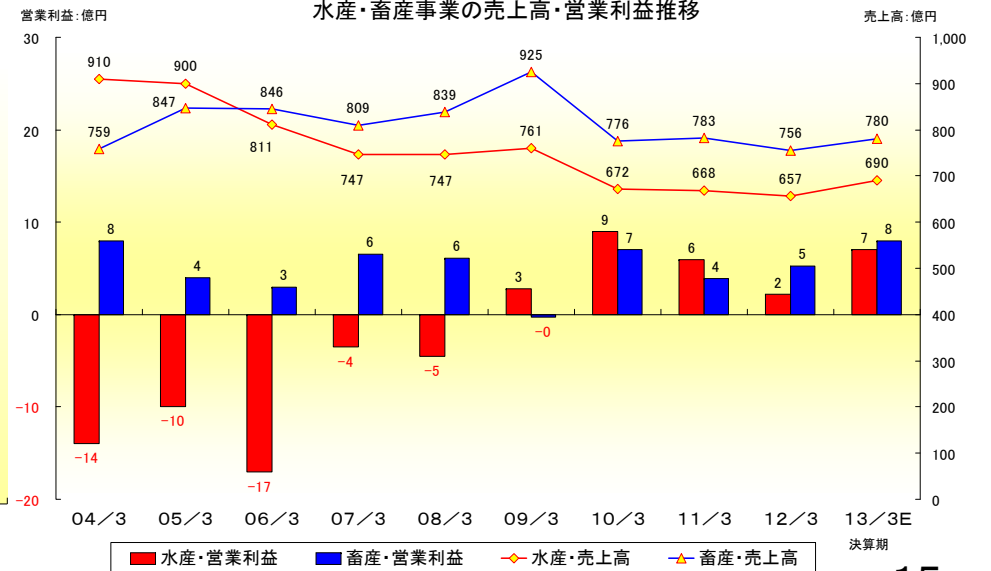
低温物流事業の営業利益推移



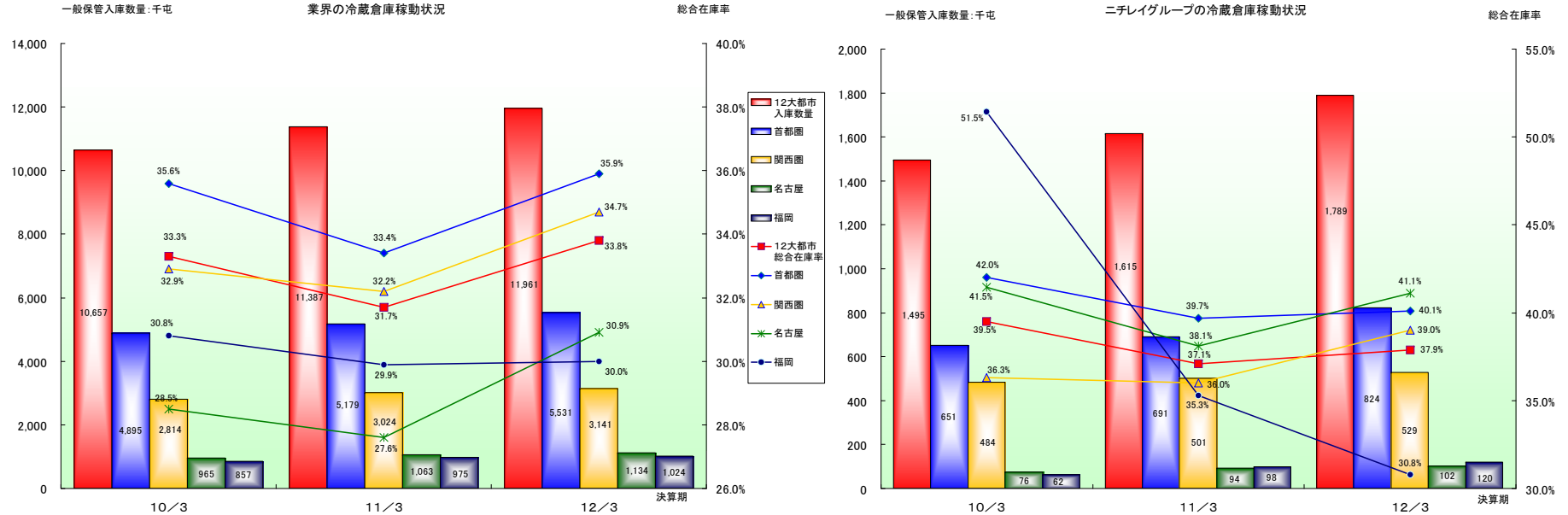
物流ネットワークの部門別売上高推移



水産・畜産事業の売上高・営業利益推移



冷蔵倉庫の稼働状況(業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア上位20社

(日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

(2012年1月1日現在)

順位	社名・グループ名	拠点数	能力 万トン	11/11比 増減	主たる営業地域
1	ニチレイグループ	80	138	4	全国
2	横浜冷凍	39	73	2	全国
3	マルハニチログループ	37	58	0	全国
4	日本水産グループ	21	37	0	全国
5	東洋水産グループ	18	36	0	全国
6	ヒューテクノオリン	14	24	1	全国
7	五十嵐冷蔵	11	22	0	関東
8	二葉	8	17	0	関東
9	兵食	10	17	0	関西
10	鴻池運輸	13	17	2	全国
11	松岡	6	16	0	関東、関西、九州
12	キューソー流通システム	23	14	0	全国
13	寶船冷蔵	4	14	0	関西
14	ハウスイ	10	12	1	関東
15	港湾冷蔵	6	10	1	関東、関西、九州
16	山手冷蔵	5	10	0	関東
17	東京豊海冷蔵	3	7	0	関東
18	三菱倉庫	6	7	0	関東
19	辻野	6	7	0	関東、東北、九州
20	味の素物流	6	7	0	全国

(注)震災影響により、岩手県、宮城県のデータが不明なため、国内合計については記載していない。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。